

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 歩育の会
施設名	たまプラーザ こどもの詩(うた)保育園
報告者(役職)	鈴木 友香子 (当時：園長 現在：法人内事務)
住所・連絡先	横浜市青葉区新石川 2-1-15 リンクプラザ 4階
	☎ 045-910-5686
	E-mail kodomonouta@mocha.ocn.ne.jp

○タイトル (保育計画)

ひとりひとりのこどもたちのために

○主な助成備品

木製サークル、テーブル、絵本棚、滑り台、絵本、紙芝居

1. 保育計画策定の目的

合同保育時の乳児用サークル

広い幼児のお部屋で合同保育になる時間があります。

0歳児から5歳児まで朝と夕方の時間帯は、合同保育になります。みんな赤ちゃんや小さい子が大好き。触ってみたくって、声をかけてみたくって、笑った顔を見てうれしそうにしています。そんな微笑ましいふれあいもありますが、時には思わぬけがをさせてしまう事もあります。サークルを活用することで、同じ部屋に居ながらも、乳児のこどもたちが安心して過ごすことができるようになります。また、保育士の目が行き届きやすくなり、安全面でも効果が期待できます。

乳児の滑り台

園庭がない我が園では、日頃お散歩や公園あそび、リズム体操等で、体を動かす事を取り入れています。それでもこどもたちの運動不足は否めません。

滑り台を取り入れることで、自由にこどもたちが、体を動かすことに一役かうことが出来そうです。そして、みんなの興味のあるもの(滑り台)を順番に滑ることで、集団生活での協調性や譲り合う気持ちを育てられることもできます。

絵本棚、テーブル、絵本、紙芝居

テレビやDVDが好きな現代のこどもたち、それでも保育園で保育士が読む紙芝居や絵本も大好きで集中して聞いています。また、自分のおひざに絵本を置いて読んでい

る姿は、ほほえましい光景です。保育室の中に絵本専用のコーナーを設けることで、こどもたちが自然と集まってくる心地よい空間が出来ます。今は色々な絵本作家さんが描いた新しい話の絵本も多いですが、昔から受け継がれている「むかしばなし」や童話にも触れさせてあげたいと思います。大型絵本は、いつも読んでいるお気に入りの絵本が、大きくなって、自分のおひざだけでなく、みんなと共有して読め、楽しさを分かち合うことが出来ます。絵本や紙芝居を読んでもらうことは、保育園を卒園するとほとんど経験しなくなると思います。色々なお話、紙芝居を、その年齢にあった時期に、子ども一人ひとりがお気に入りのお話をみつけることができるように、たくさんさんの絵本、紙芝居に触れさせてあげたいと思います。

2. 具体的な実施内容

合同保育時の乳児用サークル

幼児のお部屋に、朝と夕方の合同保育時間に設置します。



乳児の滑り台

中庭に設置した様子。

お約束を守り順番に滑り台を滑っていく様子。



絵本棚、テーブル、絵本、紙芝居

幼児のお部屋に木製の絵本棚、テーブルの絵本コーナーを設置します。

むかしばなしの紙芝居の読み聞かせをしています。



3. その成果と評価

合同保育時の乳児用サークル

幼児は、普段過ごしている自分たちのお部屋に赤ちゃんや小さい子がいることに気がきます。どうしてサークルの中にいるのかな。戦いごっこ、あ、剣に当たると危ないからかな、大きな声を出してお友だちを呼んでいる、あ、小さい子のお耳には大きかったかな。一緒のお部屋で過ごすことは、どうゆうことだろう…。普段だったらいいけど、小さい子がいるときは、気にかけてあげる必要があるのかも。

でも、やっぱり、じつとはしてられない、わかっちゃいるけど、やめられないよね。そうだよ、だめよ、あぶないよ、と言われながら遊ぶのって大変だよ。

そのためにサークルを活用して先生たちが小さい子を守るよ。

小さい子がいること、みんな(幼児)とは違うこと、遊ぶルールやお約束を伝えながらも受け入れ側の方できちんと準備をしておくことで危険な事やけがなどから防げることもあります。

こどもたちにとっても、保育士にとってもサークルを上手に活用することで安心してお部屋で過ごすことが出来ています。

また、特別注文で発注したおかげもあり、木製のサークルはやさしい手触りと、自然のやわらかな風合いがあり、なでなでと肌触りを楽しむ子もいました。

乳児の滑り台

園庭の無い保育園のわずかな中庭の空間にあることで、保育活動の合間のちょっとした時間でも滑って遊びます。ソフトな素材の滑り台はぶつかっても当たっても安心です。運動機能の上達や運動不足の解消とまではきちんとした数値などはわかりませんが、

さっと怖がらず滑ることや繰り返し行うことで活発に動くことが出来るようになったと感ずます。また、「じゅんばん、じゅんばんね、」と口々に言いながら交代で滑っていくこどもたち。時には順番を守れなくて横入り、「じゅんばんだよー」「いけないんだよー」保育士が言うより先に並んでいるこども達に注意をされてきました。みんなで使う物にはルールがあつて、守らなくてはいけないことを理解することが出来たと感ずます。

絵本棚、テーブル、絵本、紙芝居

幼児のお部屋の絵本コーナーでは、一人ひとりが思い思いに絵本棚から絵本を取っていきます。絵本が届いて絵本棚に置いたとき、「先生、ありがとう！この絵本、見たかったの！」と嬉しそうに声を掛けてくれたこどもたちの言葉には、思いが通じてよかったと感ずました。あの絵本を見たい、給食を食べている時から狙っていたと思われるほど、給食を食べ終えた子は、真っ先に目当ての絵本にまっしぐら！

大型絵本は、クリスマス生活発表会で園長先生が朗読しました。

こどもたちはもとより、保護者の方々が幼心にかえて集中して聞き入っていました。

4. 今後の課題と展望

木製サークル、テーブル、絵本棚、滑り台、絵本、紙芝居

駅に近い都会型の園庭の無い保育園。こどもたちの運動不足や活動的な遊びへの欲求不満は否めません。木製サークルがあることで、室内でも安全に安心して遊ぶことが出来ること、滑り台を活用して活発に遊ぶことで少しでも解消できたと感ずます。ただ、それには限りがあり、日々成長していくこどもたちには、物足りなく感ずることも予測されます。保育士もサークルや滑り台に頼るだけでなく、体を使った遊びを保育に取り入れる研修を受けたり、勉強して保育士としても成長していきたいと考えます。

絵本の貸し出しも行なっていきたい、絵本を使った食育をしていきたい、やってみてほしいことは次々に浮かびます。園では、先生が係りの分担をしています。絵本係の先生と今後は、絵本を読む、聞かせる、だけでなく活用していくことを話し合っていきたいと思ひます。

以上